

特集

第14回 SRお客様交流会

第14回SRお客様交流会

2012年2月16日(木)
大田区産業プラザPiO

「SRお客様交流会」は、車両を扱う様々な業種のお客様が集い、SR導入の実践的なノウハウの交換だけでなく、安全運転やエコドライブ効果などの情報交換を通じて交流を深めるイベントです。14回目を迎えた本会では、88社140名が参加され、事例発表や分科会、SR関連の新製品発表などで実りの多い会になりました。



たった4年で会社に劇的な変化!?
現場主導がSR運用を成功へ導いた

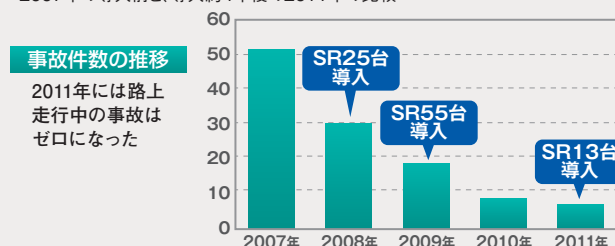
ピアノ運送株式会社 様

ピアノ運送株式会社
専務取締役 松本 学 様

所在地: 港区芝公園1-2-9
営業拠点: 本社・営業所14カ所
設立: 1910年
代表者: 代表取締役社長 花井 宏真
従業員数: 200名 車両台数: 94両
事業内容: ピアノ運送・事務機器輸送
SR導入: 2008~2011年に全車両(94両)にSRVideoを導入

車両事故が52件から7件に激減

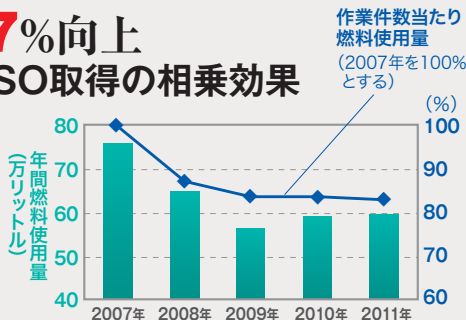
*2007年の導入前と、導入約4年後の2011年の比較



燃費が17%向上 SR導入とISO取得の相乗効果

燃料使用量の推移

燃料使用量を作業件数(引越件数)で基準化(ℓ/件)。2011年はSR導入前の83%になった



2007年の初めから、ISO9001とISO14001の取得のため、事故削減と燃費向上に取り組み、効果を上げてきました。しかし、その効果が鈍り、打開策としてSR25台を試験導入しました(ISOは2008年に取得)。SR導入は予想以上の成果を生み、現在全94車両にSRを搭載。その結果、SR導入前に比べ、**事故は7分の1に減り、燃費は17%向上**しました。

ピアノ運送一筋で輸送品質は折り紙つき

ピアノ運送は、社名通り「ピアノ運送一筋」で運送事業を発展させ、一昨年で100周年を迎えました。少子化や景気低迷でピアノ製造規模が縮小。7、8年前からOA機器の輸送に注力し、事業の柱として成長しています。

ピアノ運送の特長は、運ぶものが重いこと。重さに加えて振動や衝撃に弱いため、非常にデリケートな作業を要します。「**お客様が安心して気持ちよくピアノの配送を任せられる**」ノウハウが、OA機器の輸送でも他社との差別化力になり、絶大な信頼を得ています。

SR運用を現場リーダーに一任、自主性ある若手を育む

当社では、経験豊富なドライバーを**現場のトップとして責任を持たせる「現場リーダー」**という役職を置いています。

SR運用は全て、現場リーダーが行い、SR得点管理からエコドライブ運転指導まで担っています。

「全国ランキング月報」も営業所が交替で集計・発行しています。また、報奨金も「現場リーダー会議」が稟議書を出し、即決で制度化されました。

このように徹底した現場主義が、導入効果実現の決め手になりました。同時に主体的なSR運用を通して、中堅層のモチベーションが向上し、**現場リーダーがリーダーを育てる土壌**もできつつあります。



▲ピアノの重量は、アップライト型で約250kg、グランド型で約300~350kg。衝撃や振動に加え、わずかな傷にも気を遣う繊細で高度な作業である

2011年 12月分

個人平均	営業所平均
1位 橋本 浩一 98.34	1位 三鷹営業所 96.94
2位 神崎 貴一 96.81	2位 神戸営業所 92.20
3位 宮川 一廣 96.67	3位 千葉営業所 92.02
4位 山崎 浩二 96.28	4位 鹿児島営業所 91.04
5位 山崎 浩二 96.28	5位 静岡営業所 89.48

◀営業所、ドライバーごとにランキングされる「全国ランキング月報」

現場リーダーが中心となり、リーダー会議で報奨制度を提案。各営業所での自主性と創意工夫も自然に生まれたという ▼





SR運用にマンネリはない！ 着実な効果を上げる指導方法とは？

野田営業所 所長 眞壁 秀司 様 営業部 部長 菅野 高弘 様

所在地：埼玉県川口市芝高木1-7-14
営業拠点：営業所7カ所
設立：1970年
代表者：代表取締役社長 瀧澤裕司

従業員数：420名（パート、アルバイト含む）
事業内容：一般貨物自動車運送事業、3PL事業
貨物運送取扱事業、損害保険代理店業務
車両台数：217両 SR導入：全車両

新雪運輸株式会社 様

褒めることと報奨制度で SR活用の定着化を図る

新雪運輸では、2007年7月より全営業所の車両にSRを装着し、今年で6年目を迎えました。「SR運用にマンネリはない！」と考え、様々な取り組みを継続しながら着実に効果を上げてきました。その1つが「**まずは褒める**」こと。管理者とドライバーが一緒に運転データを確認し、その際に危険挙動が出ていても怒らず、危険挙動を回避できたことを褒め、危険挙動を回避するにはどうすれば良いかを話し合います。2つ目は、「**競争の導入**」です。ドライバーに競争心を持たせるため「**報奨制度**」を採用し、ランキング上位者に賞状と金一封を添えて表彰しています（SRNEWS vol.50をご参照）。

ドライバーの問題・課題を解決する 管理者向けの想定問答集を作る

3つ目が「**問題・課題の解決**」です。SR運用にあたり、ドライバーから「（SRに否定的な）言い訳」が必ず出てきます。その解決策として安全運転やエコドライブが、会社とお客様、ドライバー自身にいかによりメリットがあるかをきちんと説明して納得してもらいたい。そのため管理者用に想定問答集を作り、ドライバーの様々な問題・課題一つ一つを潰していくことにしました。

指導中、よくドライバーに言われることが、「**信号の変わり目で急ブレーキを踏んだ**」です。1日の運行で10回も20回も信号の変わり目にあたることはなく、たとえ危険挙動で急制動レッド指導書が出て、1日のブレーキを緩やかにかけていれば総合点は100点になります。このようなドライバーにはブレーキが強い傾向があるので、**車間距離を今より1、2m長く**とることを指導しています。

伸び悩みドライバーを底上げする 安全運転講習会

4つ目は「**講習会**」です。低得点者に対して営業所ごとに様々な指導を個別に取り組んでいましたが、あまり効果が出ませんでした。そこで各営業所から**点数の低いドライバーを集め「安全運転講習会」を開催**。対象者を低得点者のほか、事故を起こした人、新人ドライバーとし、3カ月ごとに過去6回の講習会を実施しました。

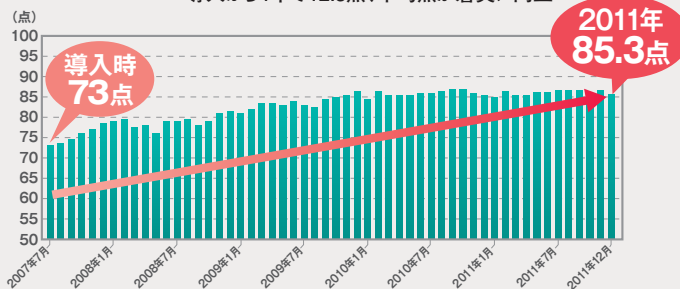
講習内容は、①「日常点検実施テスト・死角検証」、②「実車運転」、③「SR活用講習（散布図、ヒストグラムなど）」、④「SR映像によるKYT（危険予知訓練）」——など丸1日をかけてSRを活用した安全運転講習を行います。

交流会の会場でも、実際の映像を使って講習会と同様のKYTを再現し、好評を得ました。



▲ 安全運転講習会で行われる実車教習（左）とSR映像によるKYT（右）の様子

平均点の推移 SR導入時から現在（2011年12月）までの平均点の推移。導入から4年で12.3点、平均点が着実に向上



解決策

あおりや嫌がらせが嫌だからと速度を上げて事故を起こせば自分自身が損をするよ。
車両後部にステッカーを貼り、車の速度が遅いことをもっとアピールしよう。



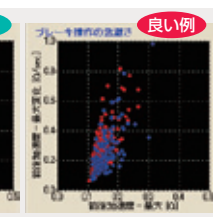
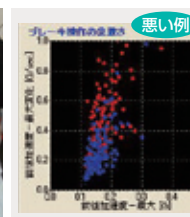
燃費が悪かったり、交差点を早く走行すればタイヤの減りが早くなり、経費を圧迫してしまう。
点数が悪いのは、**速度が高く、安全確認の時間が少ないのでは？**

問題・課題

後車にあおられる。追い越しの際に嫌がらせをされる。

事故さえ起きなければ、点数はどうでもいいのでは？

▲ ドライバーの言い訳にも、まずは耳を傾ける。対話から問題点と課題を明らかにし、ドライバー自身の言葉から解決策を見いだすように導く



▲ SR散布図・ヒストグラムの活用講習の様子（写真左）。ブレーキやハンドル、スムーズの散布図から問題点の見方、加減速のヒストグラムの見方などを学ぶ。図はブレーキの急激さの散布図（左が悪い例、右が良い例）

安全と品質向上は、 荷主の信頼とローコスト経営に直結！

安全への取り組みには、お金（投資）がかかります。 当社の経営トップは、たとえ安全や品質へ投資が大きくなっても、それにより荷主様の満足度を向上させることがこそが受注増・受注条件の好転になり、**結果としてローコスト経営につながる**という信念を持っています。

これからもドライバーへの運転指導や、安全運転講習会でSRをより一層活用し、映像とデータを活用した安全運転教育を充実させ、事故撲滅とマナーを守った運転指導を継続したいと思っています。

NEW

SR関連新製品の紹介

SRnetworkやSRフォークリフトなど
2つの新製品発表で大いに盛り上がるネットで車両の運行を
ローコストで集中管理

『SRnetwork』は、WiFi対応のSR車載器『Wi-Fi SR』やスマートフォン*からインターネット経由で送信された運行データを、専用サーバー『SRnetworkサーバー』で一括管理する運行データ管理システムである(図1)。

従来のSRでは、運行データ管理にメモリスティックが必要であったが、SRnetworkではインターネット経由で運行データを送信するので記録メディアが無くても運用可能になる。運行データは、車載したWi-Fi SRやスマートフォンから自動的にアップロードされSRnetworkサーバーで自動集計後、管理者(本社、営業所など)のPC(またはスマートフォン)へ送信。これにより管理者側では、リアルタイムに店着情報を知る「①動態管理」や「②運行管理」が行える。①では、店着情報は管理者のほか荷主様側からも閲覧可能。②では、全車両データを月/ドライバー/営業所ごとに集計一覧表として利用できる。

SRnetwork導入により、Wi-Fi SRであれば従来の携帯電話を使ったシステムの1/3の費用での運用が実現できるのも大きな魅力である。またスマートフォンであれば、ドライバー側では従来の『Safety Rec』が持つ安全運転診断やドライブレコーダ、カーナビ機能なども利用できる。

*専用アプリ『SRnetwork』のインストールが必要

構内の安全をがっちり守る
フォークリフト専用SRが登場

『SRフォークリフト』は、フォークリフトの安全運転診断ができる専用SR(図2)。構内での車両運行記録や運転診断が残せるため、荷主様からの安全管理要求に対応でき、構内事故の検証や作業員の具体的な安全運転指導などに役立つ。GPSによる速度情報がとれない構内においても、加速度計による自律速度を検出できるので使用場所を選ばない。

主な特長は、①「速度」「加速」「減速」「旋回」「バック」の5項目での安全運転診断が可能、②「スイッチバック診断」機能を装備、③危険挙動時は画像も同時記録、④车速パルス無しでも速度検出ができる——の4点。その他にも、段差による不要に出たデータを除外したり、逆に段差での荒い運転を検出することができる。またガソリン車のほかバッテリー車(48V仕様)にも対応可能だ。今後データ・テックは、リーチフォークへの対応や、画像機能を搭載しない製品、2チャンネルカメラ対応製品の追加、管理者用ソフト『Forkliftの達人』のバージョンアップ等を行い、SRフォークリフトの充実を図る意向である。

今回の交流会では、SRを利用した運行データ管理システム『SRnetwork』やフォークリフト用SR『SRフォークリフト』などの新製品発表やデモ展示も行い、たくさんのご来場者に注目をいただいた。



図1 SRnetworkの全体イメージ図。運行データをネットワークで一括管理しながら、運行管理、動態管理、カーナビ機能が利用できる統合型システム

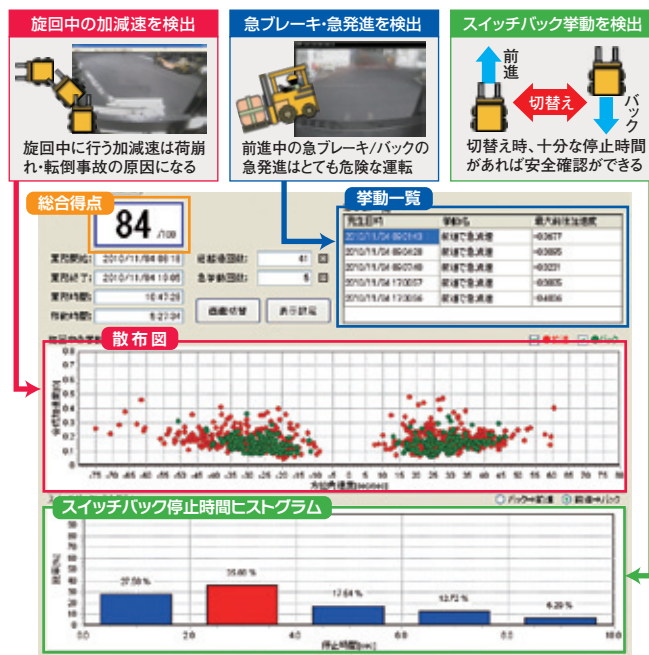


図2 SRフォークリフトの診断内容例。総合得点のほか、各診断項目を散布図やグラフ、チャートなどでグラフィカルに表示できる

日本一のSRドライバーと企業が決定!!
第1回SRグランプリを開催

データ・テックは、SR診断データを元に安全運転ランキングを行い、優秀者を表彰するコンテスト「SRグランプリ」を開催することを発表した。本コンテストに参加する企業全体でSR得点を競い合うもので、2012年3月1日から同年8月20日(6カ月間)までのSR診断データをSRグランプリ事務局が集計し、小型・中型・大型トラックごとに営業所、個人の6部門にわけて最優秀者を選出。名実ともに全国No.1のSRドライバーや企業(営業所)が決定する。同事務局は毎月、ランキングの途中経過を同社ホームページで発表する。

SR Grand Prix

部 門	表彰	備考
大型トラック営業所部門	優秀者	5トン車以上
大型トラック個人部門	優秀者	5トン車以上
中型トラック営業所部門	優秀者	4トン車
中型トラック個人部門	優秀者	4トン車
小型トラック営業所部門	優秀者	2～3トン車
小型トラック個人部門	優秀者	2～3トン車

小型から大型トラックでの営業所、個人の6部門を設置。小型部門は、車両の特性上高度な技量と、経験を要求される

同業&他社とSR導入から運用まで、実践的な意見やノウハウを交換し合う

事例紹介の講演や、SR新製品の発表会などの後に、7つのグループに分かれ意見交換会を実施しました。その中の代表的な意見や感想をご紹介します。

1 効果を出すためのSR導入の仕組みづくり

- 褒めて育てる ▶ 運転者は内心嬉しい(ニンジンもあれば尚良し)
- SRを導入することの目的を明確にする
- SRは叱るものではなく、ドライバーを褒めて安全運転に導き、ドライバーを守れるということを伝える

2 ドライバー指導のためのSRデータ活用方法

- 管理者のレベルを上げる
SRデータを十分に理解し、身近な例でデータの説明をドライバーにわかりやすく伝える
- 管理者とドライバーがコミュニケーションを取り、相互にSRデータの有効活用について話し合う

3 SRデータの管理方法と集計データの活用法

- SRのデータを収集し、挙動を管理、教育する
1人にかかる時間は、問題があるときで10~20分、問題なければ数分で終わる
- 効果を上げるためには、データを管理し、その変化を確認する
- トラック協会と連動して、動画のデータ共有化、KYT対応に有効活用したい

4 マンネリと言わないSR運用方法

- 上からの押し付けでなく、若手の自主性を尊重する
- 伸び悩みのドライバーには同乗運転が効果的
- SR交流会を活用し、他社事例からヒントを得て自社のノウハウとして取り込む
- SR映像を客観的かつ多角的な判断材料として活用し、得点が悪くても危険回避ができたことを褒める

5 燃費向上とコスト削減への仕組みづくり

- ドライバーにコスト意識を持ってもらう
- 車種別等で公平性を持たせ、班・グループで競い合わせる
- 管理者とドライバーがよく話合う
話し合うことで、管理者、ドライバーともに成長する
- ドライバーと管理者、会社全体の信頼感が原動力

6 軽微な事故を予防するための取り組み

- 定期的に行く場所は情報(データ)を残して共有する
- バック事故には降車し目視による後方確認が有効
- 軽微な事故を減らすルールを取り決め、注意喚起によって徹底化を図る
- 軽微な事故を減らすハード、ソフトの活用に加え、ヒューマンエラーを減らすコーチングにも力を入れる

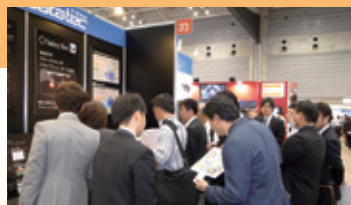
7 バス事業者同士でのSR運用意見交換

- SR導入効果を検証するため、事故発生件数削減と燃費効果のほか、乗客のクレーム件数も見ていく
- SR得点の社内掲示により、乗務員が切磋琢磨できる環境づくりを目指す
- SR運用法を大胆に変えることでマンネリを防ぐ
マンネリは、管理者とドライバーの取り組みで回避できる

株式会社 データ・テック イベント紹介

自動車技術展
人とくるまのテクノロジー展
2012
AUTOMOTIVE ENGINEERING EXPOSITION

日時: 2012年5月23日(水) ~ 25日(金)
場所: 横浜国際会議場(パシフィコ横浜) 展示ホール



▲ 盛況を極めた、昨年の同展データ・テックブース

データ・テックブースにおいて、SRシリーズやSRnetwork、SRフォークリフトなど、様々なSR関連製品の展示やデモを行います。昨年より充実&パワーアップした内容になりますので、ご来場の際には弊社ブースにぜひお立ち寄りください。